

本町では、『北海道駒ヶ岳』を擁していますが、現在火山活動に大きな変化は無く静穏に経過しています。

しかし、北海道駒ヶ岳は噴火予兆が難しい火山でありますので、今後も一層の防災体制の強化や計画的な防災備蓄品の拡充に取り組みとともに、自主防災組織を核とした地域防災力の向上に努めます。

具体的な施策としては、鹿部町防災備蓄計画に基づき、食料や防災資機材、生活必需品等の整備を計画的に進めるとともに、避難所内での新型コロナウイルス感染症対策のパートナーシヨンなども整備します。

また、日頃から防災に対する意識を高めるために各町内会と連携を密にし、町内会防災部長会議の開催や町内会をはじめとする各団体などに対する防災出前講座を実施するほか、災害時の防災活動の核となる自主

防災組織の強化及び育成を進めるなど、運営面を含め活動支援を行います。

毎年実施している町民を対象とした避難訓練について、令和4年度では北海道駒ヶ岳火山噴火避難訓練を計画していますが、新型コロナウイルス感染症対策を講じた新たな訓練の実施方法などについても検討していきます。

また、防災行政無線については、現在の機器を導入後、15年以上が経過し、機器の不具合や改正電波法で定めるスプリアスへの対応が必要であることから、機器の更新を行い、非常時の最も重要な通信手段を確保していきます。

また、防災行政無線で放送した内容を町公式ホームページに掲載し、無線放送の聞き逃しなどにも対応します。

そのほか、継続事業として、小・中学校で防災学習

会の開催や防災訓練の支援のほか、1日防災学校を実施し、若年層から防災意識の向上を図っていきます。

消防体制の強化・充実

次に、地域住民の安心・安全を確保する消防体制について申し上げます。

消防は、火災をはじめとする各災害から地域住民の生命、身体及び財産を守るという使命のもと、その活動は極めて広範囲に及び、地域社会の安全や住民の暮らしに必要な不可欠な業務であります。

新型コロナウイルス感染症対策にあつては、感染者隔離搬送用バッグDIFトランスバッグを新たに加え、万全な強化体制を期しています。

また、複雑多様化する火災や各種災害などに対し、迅速かつ的確な対応を図る

とともに、専門高度な知識と技術の習得に努めるべく、各研修・講習会への参加など職員の育成に努め、各種災害にも救急救助活動を重視した資機材の整備、さらには地域防災の要であります消防団員の将来の担い手確保を目的とした入団促進や防火衣等の更新を行うとともに、消防防災分野におけるデジタル化を図り、消防職員・消防団員の資質の向上と消防体制の充実強化をします。

また、消火栓の新設・更新工事を計画的に実施し、設備の充実を図っていきます。

また、消火栓の新設・更新工事を計画的に実施し、設備の充実を図っていきます。

教育行政の推進

次に、教育行政について申し上げます。

進展する少子化やグローバル化、人工知能などのデジタル革新により、社会の

在り方そのものが劇的に変わりつつある中、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない状況が続いており、教育分野においても様々な課題に直面しています。

このように大きく変化する社会に対応するため、確かな学力「知」、豊かな心「徳」、健やかな体「体」という人間力を身に付けた人材を育成することが求められており、その基盤となる教育環境の充実に努めます。

そのため、子どもたちの学びの中心となる学校、子育ての基盤となる家庭や地域等がそれぞれの役割を果たし、互いにしっかりと連携することが大切になります。

教育行政の具体的な執行方針については、この後、教育長から申し上げますので、私からは主要なものについて申し上げます。